

L'horloge

Osaka Gakuin University
Public Relations Bulletin

ロルロージュ No. 125
April 2004



『現代日本の流通と社会』

田中 道雄 流通科学部 教授 共著
ミネルヴァ書房



『情報セキュリティ』

笠原 正雄 情報学部 教授 共著
オーム社



『情報セキュリティ —暗号、認証、倫理まで—』

笠原 正雄 情報学部 教授 共著
昭晃堂

編集後記

青葉が薫る季節となり、学内は清新の気に満ち、学生諸君の意気も高らかなものがあります。また、社会は景気回復の兆しも見え、大きな転換期を感じさせます。大阪学院大学は4月に法科大学院を増設し、司法教育における重要な担い手となりました。これは、まさに時代の要請に応えるものといえましょう。このような大変化の重要な要因としてIT（情報技術）の発達が挙げられます。一説によると、このような情報の役割は100年ほど前の日露戦争に始まったといわれています。当時、信濃丸は東シナ海でバルチック艦隊を発見し、「同艦隊は対馬東水道へ向う」と東郷長官に打電したことが記録に残っています。これは世界史を変えた最初の船舶無線通信の例とされます。世は移り変わり、今やバルト海諸国はロシアから独立し、EU（欧州連合）に加盟しました。アジアでも、台湾、韓国、中国、インドの情報産業の勢いは天を突くばかりの盛り上がりです。私たちも、このような世界をリードできる存在であり続けられるよう努力していきたいと思います。

大阪学院大学広報

L'horloge ロルロージュ No.125
April 2004

- 発行 大阪学院大学
大阪学院短期大学
- 編集 広報部

〒564-8511
吹田市岸部南二丁目36番1号
☎(06)6381-8434(代表)

URL
<http://www.osaka-gu.ac.jp>

ESSAY

『家族と漫画と憲法と』
大久保 卓治

FOCUS

ユニバーシティクラブ
指導者紹介 Vol.1

VOICE

国際協力の在り方
—私たちにできること—

CAMPUS LIFE

CAMPUS NEWS DIGEST

INFORMATION

新刊紹介



『家族と漫画と憲法と』

12

今回、私がこのリレーエッセイを担当することに決まり、さて、つれづれなるままにどんなテーマを書こうかといろいろと考えたのですが、なかなかいいテーマが見付かりません。気晴らしに、近くにあった漫画雑誌を読んでいて、ふと大学時代にある先輩が言った言葉を思い出しました。

学生時代、私は法律研究のクラブに所属していたのですが、そのクラブでは先輩から後輩へと基本的な法律の講義が行われていました。第一回目のときだったでしょうか、ある先輩から「法律の勉強は漫画からでもできるぞ!」と教わりました。

法律の勉強のきっかけは何でもいい

これは、当時の私にとってカルチャーショックでした。先輩の発言の意図は「漫画には様々な法律問題が見え隠れしていて、それを見付けることも法律の勉強の一環だ。一見くだらないような屁理屈に見えても、そこに法律上の問題を見付け出し、勉強を始めるきっかけにすることができる」というものでした。その際に先輩は、ある有名なファミリー漫画を例に挙げました。その漫画（テレビアニメ）に登場する幼い子どもは、何年たっても小学校はおろか、幼稚園にも入園した形跡がなく、その子の教育を受ける権利を侵害しているのではないかと。漫画というのは時間の流れはあまり重要ではない場合も多いのですが、そんなたわいもないことでさえ法律に接するきっかけにすることができるのです。顧みると、私が講義を始めるとき、「いろんなことに興味を持って、そこに法律上の問題を見付け出し、法律の勉強のきっかけにしてほしい」と最初に似たようなことを学生諸君にも話すことがあります。

日本の漫画は、それ自体が一つの日本文化として世界に発信されており、有名なハリウッド映画が日本の漫画の影響を受けていたとしても、驚くほどのことではありません。だからといって漫画ばかり読んでいるのもどうかとは思いますが、一教員としては、法律に興味を持つきっかけは何であっても私はかまわないと思います。私自身も漫画がきっかけだったと言えないこともないわけですから。

それにしても、その有名なテレビアニメの家族構成は、「親子二世代の同居、妻が専業主婦、夫が会社員」と多くの日本人が考える典型的な家族のようにも思いますが、現実の家族とはそういうものなのでしょうか。おそらく、多くの家庭では共働きであったり、単身赴任であったり、また、場合によってはもっと複雑な家庭もあるのではないのでしょうか。「あんな家族、今どきないよ」といった声も聞こえてきそうです。現代の複雑な社会においては、家族もやはり多様化しているのでしょう。私は、家族関係や友人関係などを描いた四コマ漫画雑誌をよく読みますが、その中で描かれている家族像には様々な家族観が取り上げられています。「漫画に描かれている家族像とは一体どのようなものなのか」ということを調べてみるのもおもしろそうです。「漫画から法律上の問題を見付け出す」のも「実践」です。



© 深森あき『いっしょに朝ごはん』/ 芳文社



大久保 卓治 法学部 助教授

担当科目：公法概論、憲法Ⅱ、情報と法、憲法政策論

趣味：音楽鑑賞

著書：「修正第一条に基づかないホームスクールの権利について
—合衆国の判例動向を手がかりにして—」
(大阪学院大学法学研究)

そういうわけで、コンビニエンスストアや近くの書店で販売されている四コマ漫画雑誌を手に入れました。計13冊購入しましたが、結構出版されているものです。それでもおそらく、まだほかにもあることでしょう。しかし、そこは目をつぶり、手に入れた雑誌の中から主に家族関係を中心に描かれているものだけをピックアップしました。学生生活や恋愛、仕事を舞台にしたものなど様々ですが、家族が描かれているものは全部で81作ありました。

そこに描かれている家族関係は多種多様です。夫が会社員で妻が専業主婦というものもあれば、夫が専業主夫で妻が会社員であったり、あるいは夫婦のどちらかがまだ学生だったり……。実に様々な家族像が描かれています。日常生活を題材にした漫画ですし、想像だけで描いているわけではないでしょうから、現実にもそれだけ様々な家族関係が存在するということなのでしょう。

多様な家族像が描かれていることをどう見るか

さて、家族関係と法律の話をつなげようとするれば、多くの場合民法を想像されることでしょう。でも、家族関係については憲法第24条にも規定があるのです。この基になったといわれるGHQ草案に、次のような一文があります。

「家庭は人類社会の基礎であり、その伝統は、善きにつけ悪しきにつけ国全体に浸透する」

友人の結婚式のメッセージによくこの言葉を書き込むので「またこれかよ……」とひやかされたりしますが、制定過程の中で削除されたとはいえ、家族というものがどういうものとして理解されていたのかがよく分かる一文です。

現在の憲法第24条では、婚姻が両性の合意によって成立すること、夫婦が同等の権利を有すること、家族関係に関する法律は個人の尊厳と両性の本質的平等に立脚することなどが定められています。では同性愛のカップルはどのようなのでしょうか。現在、アメリカのサンフランシスコ市では、同性愛カップルに対し、婚姻証明書の発行を認めたことでちょっとした話題になっていますが、その中には養子をもらい育てているカップルもあります。彼らとて自分たちの関係を家族だと主張するでしょう。そうすると家族とは男性と女性が結婚して子どもを作り、一つ屋根の下で暮らすことで成立するというとらえ方はできないでしょう。むしろ、個人と個人との信頼にもとづく親密なつながりの中で家族が形づくられていくと考えていかなければならないのかもしれないかもしれません。学生諸君はどう考えますか？

さて、ここまでこのエッセイを読んでくれた学生諸君に一つ忠告を。私が伝えたいのは「勉強のきっかけなんてどんなことからでもできるのだ」ということであって、ただ漫画を読むことが勉強することになるわけではないので間違えなく。

最後に少し気になったことがあります。様々な家族像を描いているのは、女性作家に多いような気がします。そして、どちらかといえば男性作家の場合、夫がサラリーマンで、妻が家でエプロンを着けて家事全般を担当するという家族像が多いように思うのです。これは何を意味しているのでしょうか。おっと、そろそろ紙数が尽きてしまいました。これは学生諸君への課題といたしましょう。



© 丹沢恵『こ機嫌いかが?』/ 芳文社



ユニバーシティクラブとは？

本学を代表するクラブとして指定された強化クラブをユニバーシティクラブと呼んでいます。

優れた人材の育成と本学の活性化を目的とし、在学生だけでなく卒業生の愛校心や所属意識を高めることを目標にしています。



硬式野球部

昨年まで14年間、スポーツ記者をしていた私の硬式野球部に対する印象は、「決して力負けする戦力ではない」ということです。今年からチームをまとめることになり、年明け早々から練習を始めていますが、日を追うごとにその思いは強くなっています。

選手たちの中には無限の可能性が眠っています。それをいかに引き出すことができるか、その可能性に気づかせてやるのが監督としての課題です。小細工などしなくても、全身全霊、こちらが選手にぶつかっていけば、必ず彼らは応えてくれると考えています。硬式野球部には、それだけ熱い連中がそろっているのです。「熱く、激しく、アグレッシブに」火の玉野球で挑む2004年硬式野球部に期待してください。



京田 剛 監督

2004年 硬式野球部監督に就任。

記者時代は、プロ球界を中心に取材生活を送る。6季ぶりの優勝を目指し、現在奮闘中。



ゴルフ部

昭和62年からゴルフ部の技術指導、平成13年6月から監督に就任し、今年で18年目のシーズンを迎えます。

学生に対する指導方針として、技術向上の前にまずゴルフにおけるエチケットやマナーの教育に重点を置き、ゴルフを通じての人間形成、一般社会で通用する人材（ゴルファー）を育成したいと考えています。これは「ゴルフが上手でも他人から嫌われるゴルファーにはなってほしくない」「だれからも好かれるゴルファーになってほしい」という私の当初からの方針であり、今後もプロを育成する以前に尊敬されるゴルファーの育成を第一に考えていきたいと思っています。

また、その中で技術も人間性も優れたゴルファーが育ち、男女ともに全国制覇ができれば、これ以上の喜びはありません。



平野 勝之 監督

1987年 ゴルフ部技術顧問に就任。

2001年 ゴルフ部監督に就任。

男子・女子ともに関西1部リーグ戦で多数の優勝を誇る。男子2名、女子1名のプロゴルファーを輩出。また、川岸良兼、手嶋多一ら多くのプロゴルファーを指導する。

アメリカンフットボール部

アメリカンフットボールは、単に激しくぶつかり合うだけのスポーツではありません。「相手をどう攻撃するか」「どう守るか」という巧妙な戦略が勝敗を左右します。私たちのチームではこれらの作戦をコーチと選手が一緒になって考えています。素晴らしい作戦を考えるには豊かな発想が必要となります。ただ、がむしゃらに練習するだけでなく、発想力豊かに物事を考えていく訓練をすることは、いずれ厳しい社会を戦い抜いていかねばならない学生にとって、必ずや大きな財産になると考えています。「心身共に成長し、目標を達成する」。これが私たちアメリカンフットボール部の指針です。



高野 元秀 ヘッドコーチ

2001年 アメリカンフットボール部監督に就任。

鹿島建設DEERSのヘッドコーチとして、日本一に輝いた経歴あり。

現在は、NFL解説者としても活躍中。



バレーボール部

私は、バレーボール部を一つのプロジェクトチームに例えて指導をしています。このプロジェクトチームは、学生たちが積極的に運営し、責任を持った行動がどれだけできるかで成功するかどうかが決まります。また、定められた時間以外にも個人的な時間やアイデアを駆使するという情熱を持った学生を育てていきたいと考えています。

私は学生に、3年間の遠征合宿の計画を提案して以来、全国の強豪校と試合をしています。3年目にあたる今年は春に東海学連、夏に関東学連の1位(日本一の大学)へ遠征する予定です。また、昨年は全日本ビーチバレー大学選手権大会で大学日本一になっているので、今年もぜひ日本一をねらうつもりです。

企業チームが廃部になっていく中で、大学生が日本のバレーボール界を支えていかなければならないと思います。



阪口 俊彦 監督

2001年 バレーボール部監督就任。

日本バレーボール協会の公認講師も務める。男子2部、女子4部リーグでの優勝をねらう。



ユニバーシティクラブの試合結果については、ホームページで速報を掲載しています。

そのほかにも、クラブ活動状況・スケジュールなどたくさんの情報を提供しておりますので、ぜひ本学ホームページのクラブ情報をご覧ください。

URL : http://www.osaka-gu.ac.jp/club/cl_frame/u_index.html



国際協力の在り方

— 私たちにできること —

— 座談会出席者 — (順不同)

司会 島岡 宏 教授 国際学部長
 藤本 明大 国際学部 4年次生
 辻 景子 国際学部 4年次生
 高橋 礼 国際学部 3年次生
 松山 晃子 国際学部 2年次生

【島岡】 今日、国際協力について皆さんの話を伺いたと思います。国際社会における日本の協力や貢献を含めて、広い意味での協調の在り方ということで語っていただきたいと思っています。

今いちばんの話題は、「イラク復興における人道支援」に関することだと思うのですが、自衛隊の本格的な海外派遣について、新聞やメディアの受け取り方、報道の在り方、それから世論と様々なものがあります。それらは横に置いて、自分なりに自衛隊派遣についてどのように受け取っているのか、まず皆さんの考えを聞かせてもらえますか。



司会
島岡 宏
国際学部 教授
国際学部長

【辻】 私は決して賛成ではありません。アメリカというすごい圧力に押されて、「人道支援しないといけない」という行動に出たとか考えられません。それから、派遣するに当たっても、安全な場所であることが前提といいます。「サマワが本当に安全か」と言われたらそうではないと思います。実際に戦闘が起こったときに、どこまで正当防衛が認められるかという問題もあると思います。あいまいな状態で行くよりは、きちんと納得できる状態で派遣すべきだったと思います。

【島岡】 安全か安全でないかということの問題視すれば、戦闘地域であってもなくても、どの地域に派遣するにしても危険は絶対付きまとうでしょう。安全だから、危険だからという問題からは離れて、イラクに対する人道支援についてはどのように思いますか。国際協力という視点から、イラクに対して日本はどうかかわったらよいでしょうか。

【辻】 私は、日本としてできることをしてほしいと思います。アメリカばかり重要視するのではなく、日本として、例えば人道支援するのであったら、もっと福祉の面での支援をしたほうがよいのではないかと思います。

【藤本】 僕は自衛隊派遣に賛成ですね。例えば自衛隊に身近な人が入隊していたら、心配なので行かないでほしいとは思いますが、イラクにも苦しんでいる人はいるだろうから、助けてあげられるのなら、できることはやってほしいと思います。

【高橋】 私は自衛隊派遣に100%反対はしませんが、全面的に賛成するわけでもないです。戦争が起こっているのだから死者も出るだろうし、負傷者も出るでしょう。危険なこともいっぱいあると思いますが、人を助け

ることは間違っていることではないと思います。人を殺すために行くわけではないので、どちらかという賛成ですかね。

【島岡】 松山さんは大阪学院大学高等学校の国際情報コース出身で、高校時代、カナダに1年間留学していたそうですね。カナダはNGO活動が活発な国だといわれていますが、カナダでの生活を踏まえて、日本の自衛隊派遣についてどのように感じていますか。

【松山】 自衛隊の派遣には基本的に賛成です。自衛隊は日本を守るためにあると思いますが、他国が困っているときに助けてあげることも自衛隊の役割だと思います。なぜなら、日本で何かあったときに他国からも助けてもらえると思うからです。

【島岡】 ここでは賛成が2人ですね。そして反対と消極的賛成と……。次に少し難しい問題に入ろうと思いますが、国際学部で学んでいるということ意識して、イラク問題をとり





えるとどうでしょうか。全く一緒なのか、あるいは先ほどの考え方が変わってくるのか、どうですか。

【藤本】 僕は、違う学部で勉強していたとしても、考え方はあまり変わらないと思います。学部によって自分の考え方が変わるとは考えにくいです。

【辻】 国際学部では、お互いの国を尊重したうえで理解し、相手のことをよく知って、そのうえでどうできるのかということを学びました。確かにそのうえでは、イラク派遣も全く反対というわけではないです。人道支援という形で、「助けてほしい」と言われているなら助けるべきですし、だから自分の意見と国際学部の学生としての意見とは違いますね。



辻 景子
国際学部 4 年次生

【高橋】 国際学部というと視野が広すぎて、すごく迷いますね。様々な角度から見られることはいいことだと思いますが、広い分、考えが浅かったり及ばなかったり、違う考えに行き着いてしまったり……。

【島岡】 ふだん日本はアメリカの陰に隠れ、世界の動きについてあまりかかわってこなかったと思いますが、今まではその結果として平和が維持され、一国平和主義といわれていた時代もありました。しかし、そろそろはっきりとした体質変えをしなければならぬという意見もあります。日本の国際協力あるいは貢献といったものの在り方、本来の日本の姿というものは、どのようにあるべきだと思いますか。カナダは NGO 活動などの先進国ですが、松山さんは留学のときに何か肌で感じましたか。

【松山】 そういう意識はほとんどありませんでした。高校に通っていましたが、友達同志で国際関係の話は特にしませんでした。アメリカの同時多発テロのときは、学校にテレビを設置し、1 日中ずっとそのニュースが流れていて、授業も中止になり、みんなが食い入るように見ていたことがすごく印象に残っています。美術の授業で、「テロについて感じたことを絵にしてみよう」と言った先生はいましたが、留学生の間では特になかったですね。

【高橋】 戦争とか国際協力とか、自

分の中で考えてはいても、なかなか話題に出にくいんですよね。仮にそういう話が出てきたとしても、無理やり話題を変えてしまったり……。だから、日本人が過剰に意識しすぎている部分もあるのではないかと思います。

【藤本】 日本として、どうあるべきかという具体的なことは難しいと思います。僕はイラクに自衛隊が行くことには賛成ですが、「実際に自分が行け」と言われたら悩むと思います。そういう意味でも日本は個人の意識が低いと思います。もちろん僕も含めて……。もっと個人レベルで積極的になれるように変えたほうがいいかと思っています。



藤本 明大
国際学部 4 年次生

【辻】 もし日本が大陸の国であったなら、国際協力にもっと関心が持てるのかもしれませんが、日本は海に囲まれているために、そこまで関心を持っていない部分があると思います。

確かに、私たちはそういったことを考える部分も薄れ、中には考えていない人も多いと思います。だからこそ、その中でどうできるか考えたうえで、日本らしい支援をどうするかということを考えていかなければいけないと思います。日本は戦争を

経験して、原爆の被害を受けた唯一の国です。その経験を生かせるような支援をしていくべきだと思います。

【高橋】 日本は世界の中で先進国として位置づけられており、今のイラクに必要な知識や技術を持っています。それを使って人道支援するというのが、今回の派遣の大義だと思います。井戸を造るとか、学校を建てるとか、そういう技術がいちばん重要だと思います。

【島岡】 辻さんはインターンシップでハワイに行って、短い期間であったにしてもいろんな国の人たちと接した中で何か感じましたか。

【辻】 ちょうどアメリカとイラクが戦争を始めようとしている時期で、イラク問題を話題にするのはタブーだと言われていましたが、高校生がどう感じているか知りたくて聞いてみました。

「卒業したら自分たちも兵隊に行かなければならない」。それは仕方ないことなんだという意見や、行くべきだという意見があったり、大勢の高校生がポジティブに考えていました。逆に、学生から質問されたときに困ってしまいましたが、憲法第 9 条の英文を持って行ったので、日本では戦争を放棄するという憲法があるという話をしたのですが、納得できる学生もいれば、「日本としてどうするのですか」という学生もいて、返答に困りました。

【島岡】 命をかけて治安維持をする

といった国際貢献だけでなく、それをを超えるもの、みんなが納得する国際協力の在り方を、日本は持たないとだめかもしれないですね。それは何だと思いますか。

【高橋】 別に軍隊みたいな服装をしなくても、普通の作業服で自信を持って「イラク復興にきたんだ」と言ってもいいと思います。



高橋 礼
国際学部 3 年次生

【島岡】 日本に自衛隊以外でそういう組織的なものがあると思いますか。

【辻】 多分ないと思います。NGO とかそういった形で少しあるかもしれませんが、実際にどうかと聞かれたら少ないと思いますね。

【島岡】 話は変わりますが、先ほど高橋さんが「このようなことは話題に出にくい、出てきても無理やり変えてしまう」と言われてましたが、おそらく皆さんの周りだけの現象ではないですよね。

【高橋】 私は国際学部にいるから、国際関係について多少なりとも興味がありますが、他学部の友達とか、外国語学部の友達からも全く話に出ませんし、あまり話したがりないというか……。

【島岡】 それはどうしてでしょうか。

【高橋】 私たちの世代が生まれた 80 年代は、戦争が終わって長い年月が

たち、絶対平和なんだという意識があるのと、やはり日本が島国だからだと思います。

【島岡】 カナダはどうでしたか。カナダの高校生も国際社会における在り方というようなことが議論にならないというのは、どうしてだと思いますか。

【松山】 日本の私たちの世代と一緒にだと思いますが、実感が無いというか、同時多発テロのときも客観的な感じで見ていて、「自分の国ではないから、まだここは安全だ」というふうに感じていたと思います。もし自分の国だったらと、深く考えていないと思います。

大人たちも「こんなニュースがあったよ」というだけで、それについて「こうあるべきだ」「こうしていくべきだ」といった話し合いもしないし、ニュースや新聞で見るだけという感じでした。





くすことの一步だと思っています。

【松山】 どの国の人も一人ひとりが意識を高め、自分たちに何ができるかを考えないと話にならないと思います。もし自分の国だったらどうするのかを考えて、他人事みたいにならず、困ってる国には助け、自分の国が困ったら助けてもらえるような関係を築いていくのがいいと思います。積極的にニュースとか、イラクのことを話題にして、それをだんだん広められたらいいと思います。

【島岡】 これから私たちは、「国際社会の一員というの一体どういうことなのか」ということから考えないといけないですね。そして、その答えが分かれば、自分が国際社会の一員として何をしなければいけないのか、新たな視点でいろいろな問題を見られるかもしれないですね。皆さん、今日は協力していただきありがとうございました。

この座談会は平成16年3月6日(土) 5号館 教室にて行われました。

【島岡】 そろそろ最後の質問をさせていただきます。我々は地球人の一人として、日本は地球の中の一国としてどのようにかわっていかないといけないのか。幅広く考えた場合に一人ひとりができることは何でしょうね。

【藤本】 「国ごとが互いに自分の正義を主張して国益を追求すれば、最終的に戦争がある」と言われたのを覚えていて、僕もそうだと思います。それをなくすのは、なかなか難しいことだと思いますが……。

イラクの自衛隊派遣でも、反対とか賛成とかいろいろ意見が分かれると思いますが、実際自分の国がイラクのような状況になったら、もちろんほかの国に助けをほしいと思いますし、イラクで起こっていることをもっと身近に、地球全体で考えられたら僕は思いますね。

そのうえで、僕は国際学部でいろいろな国の文化などを学んできたので、それをみんなに伝えたいと思います。そうすることが壁をな



松山 晃子
国際学部2年次生



CAMPUS LIFE

プロ声優への道



情報学部4年次生
辰浦 友亮

SPOT

活字に命を吹き込む声優の仕事に、ある日突然、感銘を受けました。「声優ってどうやったらなれるのだろう……」。そんなことを初めて考えたのは高校2年生のときでした。

しかし当時は、プロ志望者の競争率の高さと、声優になれなかったときの経済的な不安が大きくて、夢と現実のジレンマに悩んでいたことをよく覚えています。友達が学校の勉強をするので僕も勉強し、友達が大学を受験するので僕も大学を受験するという状態でした。

大阪学院大学入学と同時に本学放送局に入り、司会やDJ、ラジオドラマなど、とにかく自分の声と体を使う活動を始めました。実際に作品を作るという意味においては十分勉強になるのですが、適切な練習方法が分からず、学生放送というアマチュアの域を抜けるのは難しいと感じていました。

2年次生になると同時に、日本最大手の声優プロダクション附属養成所に入學を決意し、2年間通うことになりました。悩みに悩んだ結果「失敗しても死にはしない!」という、開き直りが生まれたのです。養成所の授業は土・日だったので、大学と両立して勉強をしました。事実上、休日というものはありませんでした。競争率の高い役者の世界で勝ち残っていくためにも、相当の稽古が必要で、とても大変でしたが、生まれて初めての芝居の勉強は非常に新鮮で楽しく、稽古が嫌だと思ったことは一度もありませんでした。

今年の2月に行われた、同期50人とのプロ選抜を懸けたオーディションで、僕は幸運にも合格者10人の一人に選ばれました。その養成所は学業を優先していただけたところで、大学卒業まで待ってもらえることになりました。1年後の再オーディションで、実力の衰えがないことを認められれば、来年からは東京で、念願の「プロ」になることができます。

芝居の勉強は、感情表現の機械的な勉強だけではなく、世の中とどう向き合っていくのかということも教えてくれます。すべての台本は「人間(人生)」をテーマに書かれているため、芝居をすることで台本の登場人物の人生について考え、その過程が自分自身の成長につながるのです。役を演じているとき、まるで一人分多くの人生を歩んでいるような気持ちになります。演じた人数分の人生が味わえるなんて楽しくてたまりません。ましてやプロの役者として成功すれば、そのうえ出演料までもらえるわけですから、何だか感謝したくなります。

けれども今、本当に感謝しなければならないのは、将来に何の保障もないこの世界に挑戦することを理解してくれた両親に対してです。そのうえ、この不景気の世の中で、「好きなことを仕事にする」ことができつつあるので、本当に幸せです。実力もハートも超一流の役者になれるよう、今以上に精進したいと思います。



岸辺祭 サンクンプラザでの司会



養成所の人々と

春期海外研修レポート

ハワイ大学春期研修

ハワイ大学の広大なキャンパスでの3週間にわたる英語研修に、15名の学生が参加しました。現地の学生との交流やアクティビティを通じて、ハワイの多様な文化への理解を深めるとともに、英語力向上への意欲をさらに高めることができました。



経営科学部4年次生
栗林 雄太

僕がこの研修に参加した理由は、外国へのおこがれと異文化との触れ合い、そして外国の学校で勉強してみたいという気持ちがあったからです。

毎日の授業はゲームや会話練習を中心としたもので、実践的な英語を集中的に学ぶことができました。ショッピングモールでのアクティビティやフラダンスのレッスン、ハワイアンフード体験などを通じて、ハワイの文化に触れることもできました。授業でいちばん印象的だったのは、ハワイ大学の学生とのインターチェンジプログラム(会話レッスン)でした。相手の言っていることが聞き取れなかったり、分からない単語もあったりしましたが、真剣に会話をしていると、誤った単語を使ってもお互いに理解し合うことがで

きました。自分の興味や趣味、相手の家族や日本にきたときの話などで盛り上がり、英語が完全に分からなくても自分から会話をすることで、発音の感覚や聞き取る練習、そして積極性を学ぶことができました。

この研修でのいちばんの思い出は、修了式で研修生の代表としてスピーチをしたことです。英語でスピーチをする機会はめったにないことだと思い、自分から手を挙げました。英語で原稿を作り、話をするとはとても大変でしたが、先生やルームメイトたちに助けてもらい、本番のスピーチでは何とか最後までやりきることができました。

この研修で得たことは、何よりも、自分からやらなければいけないという積極性です。ハワイで学んだことをこれからの自分の将来に役立てていきたいと思います。

カナダスキー・スノーボード研修

バンクーバーの北、車で約2時間の距離にあるリゾート地 ウィスラーでのスキー・スノーボード研修に7名の学生が参加しました。カナダの大自然の中、CSBA(カナダスノーボードインストラクター)によるレベルに応じた指導を受け、スノーボードの技術を磨きました。



外国語学部3年次生
佐々木 正臣

10日間という短い期間でしたが、この研修に参加して大変充実した日々を過ごすことができたと思っています。僕にとっては初めての海外旅行で、自分の専攻が英語にもかかわらず語学力に自信はなく、不安な思いばかりが募っていました。バンクーバーに到着しても不安が消えることはなく、言語が違うというのが最大の難点でした。そんな不安ばかり抱えていた僕を解放させてくれたのは、やはりカナダの大自然でした。カナダでは、見るものすべてが新鮮でしたが、特に自然にはほかならぬものを強く感じました。写真やテレビの映像などを通して見る自然とは違い、実際に自然の美しさや音、においを全身で感じ、いつの間にか大自然の中にいることが非常に心地よく感じられるようになりました。

した。建前を気にすることなく自然の中を自由に滑り、触れ合った人々から話を聞いていると、自分という人間がこれからどのように生きていくべきなのか分かったような気がしました。

僕が忘れることができないのは、カナダの人々が親切で友好的であったことです。しかし、出会った人々とは満足に会話ができなかったのも、次に海外へ行くときは、ぜひリスニングの力をつけて行きたいと思っています。

この研修に参加することができて、本当によかったと思っています。英語を今まで以上に勉強しなければならないと強く感じました。今回スノーボードをしたウィスラーには、またいつか訪れたいです。現地のインストラクターや引率の先生など、様々な人のおかげで大変貴重な時間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。そして10日間一緒に過ごした仲間たちにも心から感謝しています。

ハワイ・インターンプログラム

ハワイ州の公立小学校・中学校・高等学校を訪問し、日本語や日本文化について英語で授業を行うというプログラムです。出発前から下調べやプレゼンテーションの準備をして2週間のプログラムに臨みました。



国際学部4年次生
石田 祥

私は、日本語教師という職業に以前から興味があり、実際に海外で日本語や日本文化を教えることができるこのプログラムに参加してみたいと思っていました。

参加が決まったとき、このプログラムの参加者は自分一人だけということを知り、一人で行動しなければならないことを考えると、とても不安になりました。

授業の準備は思ったより大変で、教師という職業の大変さを実感しました。また、人に物を教え、伝えることの責任の重大さも肌で感じることができました。

授業の題材を選ぶ際、生徒が興味を引くものを題材にしようと考え、「日本の食文化」と「日本の着物」を選びました。「日本の食文化」ではおせち料理を取り上げ、西欧化す

る日本の食文化の中でおせち料理だけは変わらないということを伝えました。また、「日本の着物」では着物の種類やどのような場面で着るのかということを伝えました。そのほか、折り紙をしたり、肉じゃがを作ったり、浴衣の着付けをしたりと、生徒への一方的な授業にならないように心掛けました。現地の学校の会議にも出席させていただき、先生がたの考えを聞くことができたことも大変勉強になりました。

このインターンプログラムに一人で参加したことは、私にとって貴重な経験になりました。そして、自分自身で授業を進めたということが、これから私が日本語教師を目指すうえで大きな自信になると思います。

CLUB ACTIVITIES

CLUB

ACTIVITIES

軟式野球部

私たち軟式野球部は、全国大会出場を目標に日々練習に励んでいます。昨年の秋季リーグ戦では1部リーグで2位となり、西日本大会では準優勝という成績を収めることができ、とても充実した1年を送ることができました。現在部員は30人、マネージャー3人、計33人で活動しています。練習場所は本学第1グラウンドで、長期休暇中や日曜・祝日は13:00～17:00、講義期間中は15:00～17:30、週5日練習をしています。

4年次生にとって今回の春季リーグ戦が最後となり、これに優勝して全国大会に出場することを目標に練習しています。

皆さんは軟式野球に興味はありませんか？マネージャーもただ今大募集中です。初心者大歓迎のクラブですので、興味のあるかた、ぜひ私たちと全国制覇を目指しましょう。火・土曜日以外は練習していますので、ぜひ見学や練習に参加してみてください。練習は厳しくやっていますが、とても楽しいクラブです。新入生の入部を心からお待ちしています！

主将 経済学部4年次生 内木 崇



平成15年度成績

近畿学生軟式野球連盟主催春季リーグ戦 6勝3敗1分（1部4位）
近畿学生軟式野球連盟主催秋季リーグ戦 7勝3敗1分（1部2位） 西日本大会出場決定
第20回 西日本大学軟式野球選手権大会 3勝1敗（準優勝）



CLUB SCHEDULE

CLUB

SCHEDULE

体育会系クラブ

クラブ名	日程	行事・大会名	場所
アメリカンフットボール部	6月19日(土)	西日本学生アメリカンフットボール大会	王子スタジアム
空手道部	5月9日(日)	西日本学生空手道選手権大会	広島県立総合体育館
弓道部	5月22日(土)・23日(日) 5月3日(月・祝)	関西学生弓道選手権大会 大阪府学生弓道選手権大会	グリーンアリーナ神戸 大阪城弓道場
剣道部	5月9日(日) 5月29日(土)・30日(日) 6月13日(日)	関西学生剣道選手権大会・関西女子学生剣道選手権大会 西日本学生剣道大会 大阪学生剣道新人戦大会・大阪学生剣道女子優勝大会	舞洲アリーナ 福岡市民体育館 未定
硬式庭球部	6月19日(土)～24日(木) 6月26日(土)～7月2日(金)	関西学生チャレンジテニストーナメント(ダブルス) 関西学生チャレンジテニストーナメント(シングルス)	各大学テニスコート 各大学テニスコート
硬式野球部	4月3日(土)～5月31日(月) 未定(6月)	関西六大学野球連盟春季リーグ戦 関西六大学野球連盟新人戦	西京極球場・南港中央球場・舞洲球場・Yahoo!BBスタジアム 未定
ゴルフ部	5月13日(木)・14日(金) 5月17日(月)・18日(火) 6月21日(月) 6月28日(月)	関西学生女子春季1部校対抗戦 関西学生男子春季1部校対抗戦 関西学生女子選手権予選 関西学生選手権予選	朝日ゴルフクラブ 白浜コース 宝塚ゴルフ倶楽部 千刈カントリー倶楽部 滝野カントリー倶楽部 八千代コース
サッカー部	4月11日(日)～5月16日(日) 未定(6月中旬～7月中旬)	関西学生サッカー春季リーグ(1部) 関西学生サッカー新人戦予選リーグ	鶴見緑地球技場・長居第2陸上競技場・本学千里山グラウンド ほか 参加大学グラウンド
ソフトテニス部	4月29日(木・祝)・5月2日(日) 5月8日(土)～10日(月) 5月30日(日)・6月6日(日)	関西学生ソフトテニス選手権大会 関西学生ソフトテニスシングル大会 大阪学生ソフトテニス優勝大会	各大学コート 各大学コート 各大学コート
卓球部	未定(5月)	春季関西学生卓球リーグ戦	未定
軟式野球部	3月24日(水)～ 未定(6月)	近畿学生軟式野球連盟主催春季リーグ戦 全国学生選抜選手権大会	伊丹スポーツセンター ほか 未定
日本拳法部	未定(6月) 未定(7月)	西日本学生拳法個人選手権大会 全日本総合個人選手権予選	洗心館 洗心館
バスケットボール部	4月24日(土)～5月5日(水・祝) 5月23日(日)～30日(日) 6月12日(土)～20日(日)	関西学生バスケットボール選手権大会 西日本学生バスケットボール選手権大会 関西学生バスケットボール新人戦	東淀川体育館 ほか 大阪府立体育館・はびきのコロセアム ほか 各大学体育館
バドミントン部	5月1日(土)～6月4日(金) 6月11日(金)～29日(火)	関西学生バドミントン春季リーグ戦(男子2部・女子1部) 関西学生バドミントン選手権大会	中央体育館・東淀川体育館 ほか 中央体育館・東淀川体育館
ハンドボール部	4月13日(火)～5月18日(火)	関西学生ハンドボール春季リーグ戦(4部)	東淀川体育館 ほか
バレーボール部	4月10日(土)～5月30日(日) 4月18日(日)～5月30日(日) 6月24日(木)～27日(日)	関西大学バレーボール連盟春季リーグ戦(2部)(男子) 関西大学バレーボール連盟春季リーグ戦(4部)(女子) 西日本バレーボール大学男子選手権大会	各大学体育館 各大学体育館 未定
洋弓部	4月4日(日)～5月30日(日)	関西学生アーチェリーリーグ戦(1部)	各大学洋弓場
陸上競技部	5月20日(木)～23日(日) 6月12日(土)・13日(日)	関西学生陸上競技対校選手権大会 第2回学連記録会	長居第2陸上競技場 浪商グラウンド

文化会系クラブ

クラブ名	日程	行事・大会名	場所
文化会本部	6月7日(月)～17日(木)	文化・学術祭	本学・岸部市民センター
アメリカ民謡研究部	6月25日(金)	春季定期演奏会	光明アムホール
茶道部	未定(6月上旬)	春季茶会	1号館01-01教室(和室)
写真部	5月27日(木)～6月2日(水)	学外展	心斎橋ビルゼンギャラリー
書道部	6月25日(金)～27日(日)	学外展	岸部市民センター
心理学研究会	未定(6月)	学外展示	未定

独立系クラブ

クラブ名	日程	行事・大会名	場所
混声合唱団 Chor Kreis	6月13日(日)	第41回大阪府合唱祭	貝塚市コスモシアター
吹奏楽部	6月28日(月)	全日本学生吹奏楽連盟 第40回 大学バンドフェア	尼崎市総合文化センター アルカイックホール

※現在未定の行事や大会につきましては、詳細が決まり次第、随時ホームページでお知らせします。
<http://www.osaka-gu.ac.jp/club/index.html>

学生相談センターだより

カウンセリングってなんでしょう？

カウンセラー・国際学部 助教授 松本 剛

カウンセリングとは？

あなたは「カウンセリング」という言葉にどのような印象を持っていますか？例えば化粧品を買うときに、「まず、カウンセリングを……」などと言うようですが、「何か助言をしてもらったり、解決法を教えてもらうこと」がカウンセリングだと思っている人が多いのではないのでしょうか。これから紹介する心理学を基礎とするカウンセリングは、それとは少し異なっていて、具体的に何かを教えたり、アドバイスするというものではありません。

法律的な相談をしたいのであれば、カウンセラーよりも弁護士のところへ行くべきですし、体調についての相談ならば、医者の方がよりふさわしいでしょう。カウンセリングの場合は、「どうしたらいいかわからない」とか、「頭では分かっているのだけれど、どうしてもできない（してしまう）」といった相談が多く見られます。そして、そのような悩みを持つ人にアドバイスをして、あまり意味がなかったり、そのようにできない場合が多いようです。それというも、考えすぎないでやればいいことに尽きる内容が多いからです。カウンセリングとは、「困っている人が、自分の力で何とか解決したり、自分の考えを整理したり、決断したりすることを援助すること」なのです。カウンセラーは、一緒に悩み、気持ちの整理がある程度できるまで付き合う人だといえそうです。

対話の重要性

あなたは「キャスト・アウェイ」という映画を見たことがありますか。この映画の主人公は飛行機事故で無人島に流されてしまい、孤独な生活を余儀なくされてしまいます。そこで、一緒に流れ着いたバレーボールに顔を書き、それに名前までつけて「彼」を話し相手にしながら生き抜き、4年後に元の社会に戻るというストーリーです。

ついに主人公がいかだで島を脱出することに成功し、太平洋のまっただ中で漂流しているとき、「同乗」させていたバレーボールが流されてしまいます。そのときの主人公の嘆き悲しむさまは、「自分のせいで親友を見殺しにした」という自責と悲しさに満ちあふれていました。それと同時に、自分自身の一部を失ったような失意を主人公に感じました。この映画を見て、私は「人間にとってだれかと対話することがいかに大切であるか」ということについて考えさせられました。それと同時に、「自分自身と対話することの大切さ」についても改めて実感したのです。人は自分を含めただれかと話すことで、自分を保っていくことができたり、考えがまとまったり、勇気が湧いてきたりするようです。

対話する中で見付けていくこと

私たちは日ごろ、様々な人と対話していますが、人と対話することは実は自分自身と対話していることでもあるようです。人の意見を聞いて「なるほど」と思ったり、「え～、そうかなあ」と少し反発したりするのは、私たちが人の話を聞きながら自分自身と対話をしている表れなのではないのでしょうか。

カウンセラーという相手を通じて、自分自身と話し合う場をもたせてくれるのがカウンセリングです。自分の思いが分かってくると感じたら、そしてそれが秘密を守ってもらえる相手であるならば、人はもっと本音を相手に話せるようになるでしょう。そうして話すことで、時には気づかなかった自分自身に出会えることがあるかもしれません。そういう過程を通して得た結論は、自分自身が納得のいくものだろうと思います。

カウンセラーのことを「おせっかいな人だ」と言う人がいますが、それは実は反対です。あなたが一緒に考えてほしいと思ったときに初めて、カウンセラーに出会うのですから……。

CAMPUS NEWS DIGEST

人 事

新任
[平成16年4月1日付]

	経営科学部 水原 潔 教授 担当科目 経営組織論、経営学史、経営戦略論、 ゼミナールⅠ・Ⅱ		経営科学部 水原 紹 講師 担当科目 外書講読Ⅰ、経営史、 ゼミナールⅠ・Ⅱ		法学部 小幡 雅男 教授 担当科目 英書講読Ⅱ、環境の法政策、 ゼミナールⅠ・Ⅱ
	法学部 片山 信弘 教授 担当科目 企業組織の法政策、法学概論、 ゼミナールⅠ・Ⅱ		法学部 新井 剛 助教授 担当科目 民法総則、ゼミナールⅠ・Ⅱ		法学部 林 邦彦 助教授 担当科目 民法概論、民法、事故・災害の 法政策Ⅰ（私的救済）、ゼミナールⅡ・Ⅲ
	法学部 田村 真弓 講師 担当科目 民事訴訟法、 ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ		法学部 若尾 岳志 講師 担当科目 刑法総論、刑法各論、 ゼミナールⅡ・Ⅲ		外国語学部 C.H.ケリー 教授 担当科目 英語基礎会話Ⅰ、パブリック スピーキング、英会話Ⅰ・Ⅱ
	外国語学部 M.E.O.キムラ 助教授 担当科目 英語基礎会話Ⅰ、 英会話Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		国際学部 伊與田 康雄 教授 担当科目 フィットネスA・B、スポーツの科学、スポーツと文化、 競技スポーツ論、健康と運動、地域演習		国際学部 S.ギニャール 教授 担当科目 比較生活文化論、伝統文化論、 比較芸能論、ゼミナールⅡ
	国際学部 土屋 紀義 教授 担当科目 図書館資料論、資料分類法演習、 図書館概論、図書館経営・サービス論、 情報サービス論、専門資料論、 図書館特論、資料組織概説、図書館文化史		国際学部 根無 喜一 教授 担当科目 西洋文化史、国際学概論、 政治外交史、ゼミナールⅡ		国際学部 白井 元康 講師 担当科目 地域演習、現代課題Ⅵ、 ゼミナールⅠ
	国際学部 畠川 憲之 講師 担当科目 政治学概論、地域研究概論、アジアの政治と経済、 地域演習、現代課題Ⅲ、ゼミナールⅠ		法務研究科 奈良 俊夫 教授 担当科目 刑法基礎論		法務研究科 樋口 庄司 教授 担当科目 民事裁判実務
	法務研究科・法学部 細見 利明 教授 担当科目 民事裁判実務、民法研究Ⅱ（不動産取引法）、 研究指導、民法特殊研究Ⅱ（不動産取引法）、 民法、不動産取引の法実務		法務研究科 中西 哲也 助教授 担当科目 刑事裁判実務		法務研究科 吉川 英一郎 助教授 担当科目 経済法研究Ⅱ（国際取引法）
	国際センター D.T.オオシロ 客員講師 担当科目 英会話Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ		国際センター J.K.コラレス 客員講師 担当科目 英語基礎会話Ⅰ		

人 事

退職

〔平成16年 3月25日付〕

国際センター B.Y.キムラ 客員教授
R.グッドマン 客員助教授

〔平成16年 3月31日付〕

経営科学部 桑田 秀夫 教授
北居 明 助教授
経済学部 坂梨 正知 教授
法学部 岩間 康夫 教授
内山 衛次 教授
小島 晴洋 教授
下村 正明 教授
河谷 清文 助教授
木村 義和 講師
国際学部 吉田 輝夫 教授
情報学部 阿部 直哉 教授
鎮西 清高 教授
企業情報学部 箸本 健二 助教授
米倉 穰 助教授

プレオリエンテーション



〔1月25日(日)、2月21日(土)、3月7日(日)・23日(火)〕

入学予定の皆さんを対象に、大学生活への疑問や不安を少しでも解消してもらうためのプレオリエンテーションを実施しました。最初は緊張していた様子の参加者でしたが、自己紹介や先輩からのメッセージを通じて雰囲気も和やかになり、入学後の行事や授業の履修方法について積極的に質問をする熱心な様子も見られました。参加者にとって、大学生活への期待を膨らませる有意義な機会となったようです。

ハワイとの遠隔交流



〔2月4日(水)・5日(木) 2号館1階オープンラボ〕

ハワイ州にて開催されたハワイ州教育局主催の教育情報カンファレンス「E-School Conference」会場と本学を遠隔接続し、I-Chat Lounge利用学生と現地のカンファレンス参加者(教員・学生)とで交流を行いました。

「Communication Skills」 公開授業



〔1月28日(水) 2号館地下1階04教室〕

単に英語を話せるという領域を超えて「魅力ある表現力」を修得させることを目的として、平成15年度より修辞法で著名なリトル博士(ハワイ大学ホノルルコミュニケーションカレッジ)による遠隔授業を開講しています。

このような形式の授業方法の有効性や新しい英語教授法を学内外に広く紹介すべくリトル博士が来日し、1月28日(水)に行った公開授業では、本学教員だけでなく、近隣中学校や高等学校から多数のご参加をいただきました。参加者からは「大変参考になった」との感想が聞かれました。

発表を行った学生は緊張を隠せませんでしたが、リトル博士の見守る中、それぞれの力を遺憾なく発揮することができました。

プレゼンテーションコンテスト



〔2月13日(金) 2号館地下1階04教室〕

ゼミナールでの日ごろの研究成果を発表する場として、「女性の健康」「ドメスティックバイオレンス」などを題材に、14組16名の学生が発表しました。

順位	テーマ	発表者
優勝	「女子学生の就職はなぜ難しいのか」	坂井亜花里 和田ちづる 福井 順子
第2位	「男女差別について」	山口 綾乃
第3位	「女性の健康情報 ～にがりの効果～」	大石 沙矢

来場していただいた多くのかたがたのご支持に応え、さらなる飛躍を期待しています。

入学式



〔4月3日(土) 体育館〕

平成16年度 入学式が執り行われ、大学1,740名、大学院108名、短期大学131名、計1,979名の新入生が希望に胸を膨らませ入学しました。

白井総長が冒頭で新入生に励ましの言葉をかけられ、また、本学の建学の精神と教育理念を語られました。なお、本学との提携校であるケンブリッジ大学クイーンズカレッジのM.ミルゲート博士にもご出席いただきました。

学内会社説明会・学内公務員説明会



〔2月16日(月)～3月5日(金) 2号館・16号館〕

学内会社説明会では、200社を超える企業と延べ2,000人の学生が参加し、活気あふれる説明会となりました。各企業の概要や特色などのプレゼンテーションの後、各ブースでは企業の採用スケジュールや業務内容などの説明のほか、学生からの質問なども飛び交い、学生にとって今後の就職活動に大変役立ったことと思います。

3月に行われた学内公務員説明会では、警察・消防をはじめ大阪府庁や大阪地方裁判所、日本郵政公社など多岐にわたる団体の参加がありました。1年次生を含む公務員志望の学生が多数参加し、今後の試験対策に向け、熱心に説明に聞き入っていました。

今後も学内会社説明会および学内公務員説明会を予定しておりますので、学生のみなさんはぜひ参加してください。

Scrapbook Making Class (スクラップブックメイキングクラス)開講



〔3月24日(水)～26日(金) 2号館2階01教室〕

スクラップブックの本場 米国から講師を招き講座を開講しました。写真をきれいに飾りつける技術を学んだ参加者は、思い出の詰まった写真を懐かしみながら、世界で一つだけの自分のアルバムを作成していました。

新入生歓迎会



〔4月8日(木)・9日(金)〕

暖かい春の日ざしの中、新しい大学生活の扉を開けた新入生に、何かきっかけをつかんでもらおうと、新入生歓迎会を開催し、バッファロー吾郎によるタレントライブやクラブ紹介、演舞が行われました。楽しいひとときを過ごした新入生たちは、きっと充実した学生生活を送るための新しいきっかけを見付けたことでしょう。

ゴルフワークショップ



〔4月5日(月) 能勢カントリー倶楽部〕

満開の桜の下、能勢カントリー倶楽部において第7回目ゴルフワークショップを開催しました。当日は柔らかな春の日ざしの中、小学生6名、中学生8名、高校生7名の21名が参加し、講師からスコアよりも基本を大切にラウンドをするよう指導を受け9ホールのラウンドレッスンを行いました。レッスン中も積極的に質問をする様子が見受けられ、熱心に受講していました。

INFORMATION

May ~

庶務課

保護者就職説明会

保護者就職説明会では、特別講師による講演のほか、OB・OGによるパネルディスカッション、就職説明を行います。この機会に保護者のかただけではなく、在学生も積極的に参加していただき、将来の進路の参考にしてください。

7月4日(日) 10:00~

対象：保護者（在学生 大学3・4年次生、短期大学1・2年次生）

学生課

第9回 文化・学術祭 —テーマ「挑戦」—

文化・学術祭とは、文化会に所属するクラブが行うイベントです。入部したばかりの1年次生を中心に、一つのことに対してやりぬく達成感、助け合い、感動を感じてもらうとともに、文化会全体の発展を目標にしています。

日時：6月7日(月)~17日(木)〔ただし日曜日を除く〕

場所：本学、岸部市民センター

対象者：一般・学生・教職員

入場料：無料

教務課

特別講座の単位認定について

「キャリアアッププログラム ホスピタリティコース」

本コースは、ホスピタリティ産業（ホテル・旅行・航空・外食産業など）における教育だけでなく、コミュニケーション能力や語学運用能力、ビジネスマナーの向上を図るなど、すべての業界において通用するホスピタリティ精神に関する教育を行います。

授業科目名	
旅行業務	ホテル業務
航空業務	観光企業論
観光事業論	ホテル事業論
ホスピタリティマーケティングⅠ（ブライダル）	ホスピタリティマーケティングⅡ（ツーリズム）
ホスピタリティコミュニケーションⅠ（ヒューマンリレーション）	ホスピタリティコミュニケーションⅡ（ビジネスマナー）
ホスピタリティコミュニケーションⅢ（英語表現）	サービスマネジメント論Ⅰ（CS実践研究）
サービスマネジメント論Ⅱ（概論）	ホスピタリティビジネス論Ⅰ（エアライン）
ホスピタリティビジネス論Ⅱ（レジャー）	ホスピタリティ情報システムⅠ
ホスピタリティ情報システムⅡ	ホスピタリティマネジメント論Ⅰ
ホスピタリティマネジメント論Ⅱ	ホスピタリティ特別講義（ホテル）
ホスピタリティ特別講義（エアライン、ツーリズム）	インターンシップ（ホテル・航空・旅行）

なお、これらの科目を修得した場合は、各科目につき「共通科目2単位」を単位認定します。

「Distance Education Program」

平成15年度後期から、遠隔授業を中心とした新しいプログラムを開設し、初年度はハワイ大学と本学とを結んだ講義を実施しました。これにより、キャンパスの枠を越えて国内外の教員や著名人の講義を受講することができるなど、従来では不可能だった学習環境を実現しています。

授業科目名	
コミュニケーションスキルⅠ	コミュニケーションスキルⅡ

なお、これらの科目を修得した場合は、各科目につき「共通科目2単位」を単位認定します。

国際センター

夏期海外研修・夏期海外インターンプログラム実施について

研 修 名 (内 容)	期 間
オーストラリア・インターンプログラム(スクールインターン)	8月2日(月)～8月23日(月) <22日間>
シンガポール・インターンプログラム(流通・小売業インターン)	8月23日(月)～9月13日(月) <全20日間>
カナダ・インターンプログラム(英語研修・企業インターン)	7月30日(金)～9月21日(火) <54日間>
トリア大学夏期研修(ドイツ語研修)	8月2日(月)～8月26日(木) <25日間>
セント・トーマス大学夏期研修(TOEIC®テスト対策プログラム)	8月22日(日)～9月19日(日) <29日間>
ケンブリッジ大学夏期研修(英語研修)	8月28日(土)～9月20日(月) <24日間>
オルレアン大学夏期研修(フランス語研修)	9月1日(水)～9月20日(月) <20日間>
カナダアウトドア研修(スポーツ研修)	8月20日(金)～8月30日(月) <11日間>

※参加申込方法など、詳細については国際センターにお問い合わせください。

IP (TOEIC®Test学内受験) および ITP (TOEFL®Test模擬試験) 実施について

試験の種類	IP (TOEIC®Test学内受験)	ITP (TOEFL®Test模擬試験)
	TOEIC®Testとは、英語によるコミュニケーション能力を評価する世界基準のテストです。IP (TOEIC®Test学内受験)は、一般公開テスト(現在6,615円)に比べ低料金の受験でスコア通知も早く、就職活動の際に履歴書にも記載できます。	国際標準の英語能力試験。特に英語圏の大学・大学院への留学を目指す人には英語力の証明として必須の試験です。正規のTOEFL®Test受験料(\$110)に比べ、低料金の受験できます。本番までのスコアアップのための練習としてご利用ください。
	5月9日(日)〔4月1日(木)～28日(水)〕	7月10日(土)〔5月10日(月)～6月16日(水)〕
	7月4日(日)〔5月10日(月)～6月23日(水)〕	10月16日(土)〔6月21日(月)～9月24日(金)〕
	10月17日(日)〔7月5日(月)～10月6日(水)〕	11月6日(土)〔9月27日(月)～10月13日(水)〕
試験日 (申込期間)	12月12日(日)〔10月18日(月)～12月1日(水)〕	
	2月6日(日)〔12月13日(月)～1月26日(水)〕	
時 間	13:00～15:30	16:10～18:40
受 験 料	4,300円	2,960円

注) 申込受付は、エクステンションセンターで行います。

DEC (Digital Education Center)

第2回 デジタルストーリーテリングセミナー

7月30日(木)・31日(金) 場所：2号館

本学では、英語教育において「ストーリーテリング」という学習方法を取り入れています。伝達手段としてのストーリーには、人の心に響く強い伝達の力を秘めているようです。この「ストーリーテリング」が英語運用能力になぜ効果的なのか、小・中・高等学校の英語担当教員を対象として、わかりやすく紹介いたします。さらに、パソコンで創作物語を制作するなど、語学教育の情報化も目指します。

【お問い合わせ】 DEC E-mail : dec@uta.osaka-gu.ac.jp

後援(申請中)：大阪府教育委員会・吹田市教育委員会

DEC (Digital Education Center)・国際センター

PHOENIX CONFERENCE 2004

■ 第8回 ELLCプログラム英語教育ワークショップ

7月28日(水)・29日(木) 場所：2号館

英語教育に携わるかたを対象に、ポートフォリオ手法やプロジェクト方式を英語教育に導入する具体的な方法を2日間にわたって紹介します。

英語指導の専門性を高め、英語学習者のモチベーションを効果的に高めるヒントが満載です。

【お問い合わせ】 国際センター E-mail : ellc@uta.osaka-gu.ac.jp

■ 第6回 MELOPワークショップ

8月4日(水)・5日(木) 場所：2号館

小・中・高等学校の教員を対象に、教育の情報化を推進する情報コーディネーターを養成するワークショップを2日間にわたって開催します。目覚ましい速度で進むIT化に対応することは、学校教育においても、未来の社会を支える子供たちを育てるという意味で、非常に重要な要素です。そのような教育現場で、教育の情報化の核となる教員として必要な技術や知識を学んでいただくワークショップです。

【お問い合わせ】 DEC E-mail : dec@uta.osaka-gu.ac.jp

後援(申請中)：大阪府教育委員会・吹田市教育委員会

TIMETABLE

5月20日(木) 前期末卒業説明会(大学)

6月2日(水) 創立記念日

7月15日(木) 前期授業終了(共通)

16日(金) 前期補講(短科大学院)〔至17日(土)〕

前期補講(法科大学院)〔至18日(日)〕

前期補講(大学・大学院)〔至20日(火)〕

20日(火) 前期試験開始(短科大学院)〔至27日(火)〕

夏期休暇開始(法科大学院)

〔至9月30日(木)〕

21日(水) 前期試験開始(大学)〔至29日(木)〕

夏期休暇開始(大学院)〔至9月30日(木)〕

7月28日(水) 編入学試験(大学)

夏期休暇開始(短科大学院)

〔至9月30日(木)〕

(ただし、後期オリエンテーションが

9月27日(月)から始まる予定です。)

30日(金) 夏期休暇開始(大学)

〔至9月30日(木)〕

(ただし、後期オリエンテーションが

9月22日(水)から始まる予定です。)